

だんばら

団原Ⅱ遺跡現地説明会資料

～旧石器時代の石器製作跡を発見～

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターでは、国道 432 号大庭バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を行っています。このたび、団原Ⅱ遺跡において旧石器時代の石器製作跡を発見しましたので、調査成果を公開します。

1 遺跡の概要

団原Ⅱ遺跡は松江市大庭町に所在し、茶臼山の南西に広がる台地上（標高 23m）に位置しています。この台地上では団原Ⅱ遺跡を含む 9 か所の旧石器時代の遺跡が発見されており、県内でも有数の旧石器時代の遺跡が多い場所です。

2 今回の調査成果

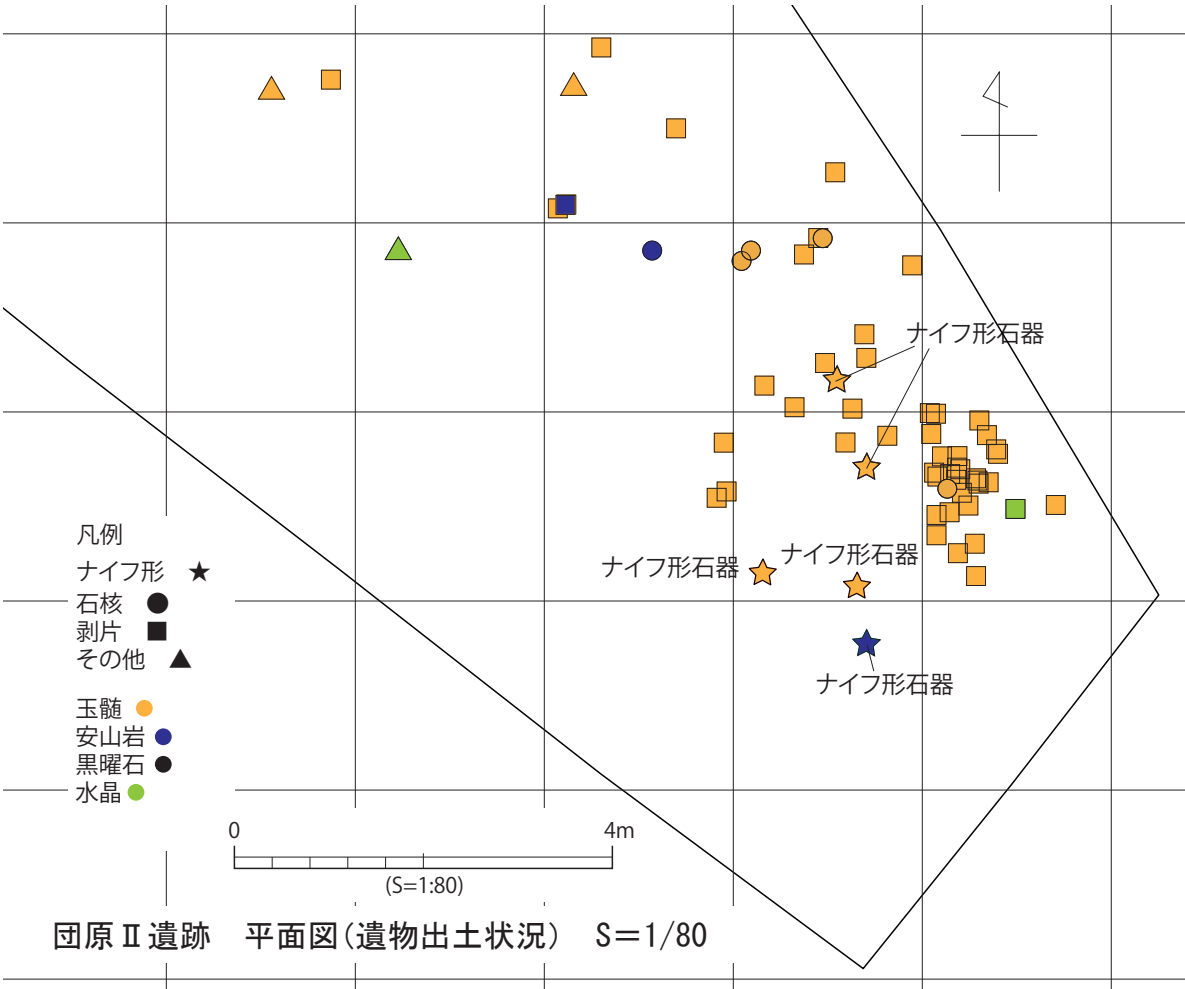
- ① 3 万年前頃のものと考えられる地層から、ナイフ形石器（突いたり、ものを切る用途で使われた片刃の石器）5 点のほか、地元産（松江市南部）の玉髄（ぎょくずい）の破片が約 140 点出土しました。
- ② 出土した石器が接合すること、破片が集中して出土していることから、その場所で石器を製作したと考えられます。
- ③ 中国山地から持ち込まれたと考えられる石材（安山岩（あんざんがん））も出土しました。

3 調査の意義

- ① 島根県内で見つかっている旧石器時代の遺跡 69 か所のうち、土層との関係から石器の製作年代が特定できたのは 3 例目、島根県の沿岸地域では初めての発見となりました。
- ② 中国山地の石器石材も見られることから、旧石器人が広域に移動していたと推測されます。

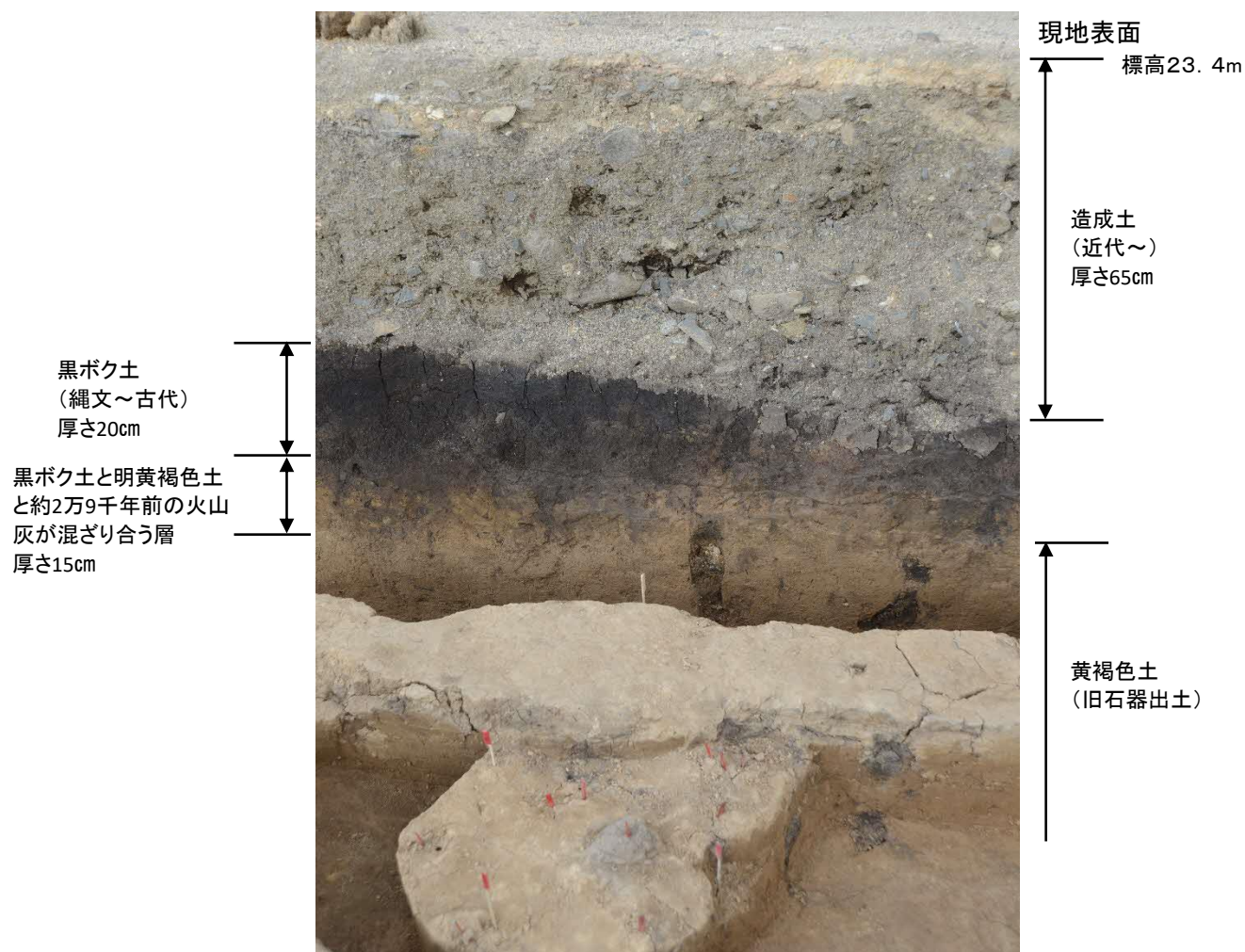


団原Ⅱ遺跡位置図 (S=1:25,000)

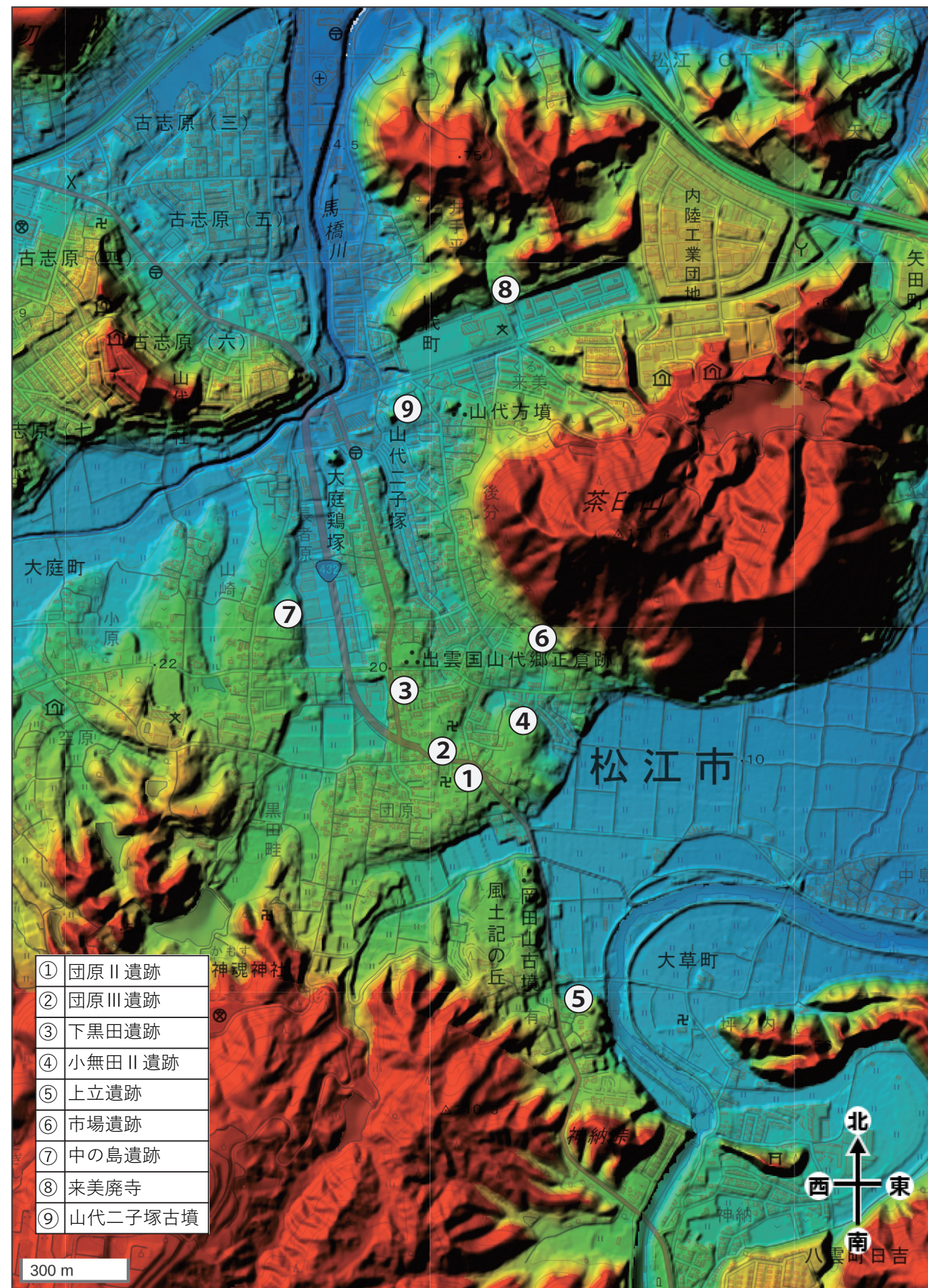




団原Ⅱ遺跡旧石器出土状況(南東から)



団原Ⅱ遺跡北壁土層堆積状況



地理院タイルに遺跡情報を追記

団原Ⅱ遺跡と周辺の旧石器時代の遺跡